



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA

コード番号 9468 URL <https://ir.kadokawa.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松原 真樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 CFO (氏名) 安本 洋一 TEL 03-5216-8212

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	152,777	1.7	13,204	56.1	13,447	46.3	8,987	14.0
2020年3月期第3四半期	150,177	△1.3	8,460	165.7	9,191	110.3	7,882	-

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 14,639百万円 (46.5%) 2020年3月期第3四半期 9,991百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	EBITDA	
	円 銭	円 銭	百万円	%
2021年3月期第3四半期	145.96	-	16,419	39.0
2020年3月期第3四半期	126.17	-	11,808	52.6

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	255,914	120,451	46.2	1,920.95
2020年3月期	242,995	107,375	43.3	1,711.55

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 118,337百万円 2020年3月期 105,302百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	0.00	-	30.00	30.00
2021年3月期	-	0.00	-	-	-
2021年3月期（予想）	-	-	-	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

2021年3月期（予想）期末配当金の内訳 普通配当 40円00銭 記念配当 10円00銭（創業75周年記念配当）

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	百万円	%
通期	206,000	0.7	14,000	73.1	14,000	59.3	9,500	17.3	154.21	18,700	44.4

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

配当予想及び連結業績予想の修正につきましては、本日（2021年2月4日）公表いたしました「2021年3月期通期連結業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	70,892,060株	2020年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	9,288,491株	2020年3月期	9,367,523株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	61,572,745株	2020年3月期3Q	62,478,456株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、中長期的な持続的成長及び企業価値の向上を図るべく、書籍、映画、アニメ、ゲーム、及びUGC (User Generated Content) プラットフォーム等を通じて多彩なポートフォリオから成るIP (Intellectual Property) を安定的に創出し、それらを世界に広く展開することを中核とする「グローバル・メディアミックス」の推進を基本戦略としております。

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,527億77百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益132億4百万円（前年同期比56.1%増）、経常利益134億47百万円（前年同期比46.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益89億87百万円（前年同期比14.0%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの業績は、以下のとおりです。なお、中期経営方針における成長事業領域の位置付けに合わせ、第2四半期連結会計期間より、従来の「映像・ゲーム」セグメントを「映像」「ゲーム」に区分して記載する方法に変更しております。

## [出版事業]

出版事業では、書籍、雑誌及び電子書籍・電子雑誌の販売、雑誌広告・Web広告の販売、権利許諾等を行っております。当事業においては、メディアミックス展開の重要な源泉として年間5,000タイトルにおよぶ新作を継続的に発行しており、蓄積された紙書籍11万点、電子書籍6万点にもおよぶ作品アーカイブが、当社グループ成長の原動力となっております。

当第3四半期連結累計期間においては、書籍市場全体で需要が高まっていることに加え、当社においては「ダンジョン飯(9)」（コミックス）、「あやかし草紙 三島屋変調百物語伍之続」「青くて痛くて脆い」（一般文庫）、「あつまれ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド」「世界一美味しい手抜きごはん 最速！ やる気のいらない100レシピ」（一般書）等の販売が好調に推移しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の環境下においても新刊点数を前年同期並みに維持したことや、返品率が大幅に良化したことが収益貢献しました。

電子書籍・電子雑誌は、市場全体が伸長していることに加え、積極的なマーケティング施策により引き続き好調に推移し、第2四半期に続いて、第3四半期においても四半期ベースで過去最高の売上高を更新いたしました。この結果、当事業の売上高は942億53百万円（前年同期比9.6%増）、セグメント利益（営業利益）は94億28百万円（前年同期比86.2%増）となりました。

なお、現在、埼玉県所沢市において、2022年3月期までの書籍製造・物流工場の稼働に向けて準備を進めております。すでに一部の文庫やライトノベル、新書、コミックにおいては、デジタル印刷による小ロット・適時製造及び適時配送を開始しておりますが、今後これらの更なる拡充・強化を図ってまいります。これにより、返品削減、製造コスト削減、利益率の向上に取り組んでまいります。

## [映像事業]

映像事業では、映画の企画・製作・配給、映像配信権等の権利許諾、パッケージソフトの販売等を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、北米、中国に向けたアニメ「Re:ゼロから始める異世界生活」「デカダンス」「天晴爛漫!」「くまクマ熊ベアー」等の海外権利許諾や国内配信収入に加え、「ソードアート・オンライン アリシゼーション War of Underworld」「この素晴らしい世界に祝福を! ファンタスティックデイズ」等の当社アニメIPを活用し、他社が販売するゲームとのコラボレーション等の権利許諾が引き続き収益貢献しました。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、映画館の営業自粛や席数の制限による映画配給やデジタル映画鑑賞券「ムビチケ」等への影響が見られました。映像・音響制作を手掛けるスタジオ事業については、第1四半期に新型コロナウイルス感染症による減収影響を受けたものの、第2四半期以降は前年同期の水準まで回復しております。

この結果、当事業の売上高は224億39百万円（前年同期比9.5%減）、セグメント利益（営業利益）は23億16百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

## 〔ゲーム事業〕

ゲーム事業では、ゲームソフトウェア及びネットワークゲームの企画・開発・販売、権利許諾等を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、12月発売の新作「サイバーパンク2077」の売上貢献に加え、「SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE」「DARK SOULS」シリーズ等のリピート販売が引き続き好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は123億75百万円（前年同期比21.8%増）、セグメント利益（営業利益）は29億46百万円（前年同期比99.0%増）となりました。

## 〔Webサービス事業〕

Webサービス事業では、動画コミュニティサービスの運営、各種イベントの企画・運営、モバイルコンテンツの配信等を行っております。

動画配信サービス「ニコニコ」の月額有料会員（プレミアム会員）は、12月末には157万人となり、3月末の163万人からは減少となっているものの、減少ペースは低下していることに加え、都度課金収益の拡大に努めるなど、収益の多様化に取り組んでいます。動画・生放送・ブログなどを配信できるプラットフォーム「ニコニコチャンネル」の有料会員数は12月末には121万人となり、3月末の117万人から増加しました。4月開催の「ニコニコ超会議」及び8月開催の世界最大級のアニソンライブ「Animelo Summer Live」は、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえリアルイベントとしての開催を見送りましたが、インターネット上に特化した「ニコニコネット超会議2020」及び「ニコニコネット超会議2020夏」、「Animelo Summer Night in Billboard Live」、「The VOCALOID Collection」を開催し、好評を博しました。リアルイベントを中止したことによって前年に比べて売上は減少したものの、ネットによる開催としたことで費用も減少し、Webサービス事業全体の収益性は維持しました。

この結果、当事業の売上高は164億22百万円（前年同期比14.2%減）、セグメント利益（営業利益）は20億85百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

## 〔その他事業〕

その他事業では、教育事業、キャラクターグッズ及びアイドルCDの企画・販売等のMD事業等を行っております。

MD事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、発売タイミングの延期等により減収となりました。一方、教育事業においては、インターネットによる通信制高校であるN高等学校で生徒数が順調に増加しており、同校等に教育コンテンツの提供を行う㈱ドワンゴの収益貢献により、引き続き好調に推移しました。また、アニメホテル、イベント運営、飲食事業などの商業施設を展開するところざわサクラタウンが11月6日にグランドオープンしました。

この結果、当事業の売上高は127億34百万円（前年同期比7.5%減）、セグメント損失（営業損失）は29億94百万円（前年同期 営業損失17億28百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて129億18百万円増加し、2,559億14百万円となりました。これは主にところざわサクラタウンの建設及び角川第一本社ビルの一部取得による固定資産の増加や保有株式の時価の上昇等により投資有価証券が増加した一方、未払金、賞与及び固定資産の取得に対する支払い等により現金及び預金が減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて1億57百万円減少し、1,354億63百万円となりました。これは主に未払金等が減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて130億76百万円増加し、1,204億51百万円となりました。これは主に配当金の支払い等により利益剰余金が減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加し、保有株式の時価総額増加によりその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上等により、60億78百万円の収入（前年同期は91億36百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出164億3百万円があった一方、定期預金の払い戻しによる収入等があったこと等により、12億58百万円の支出（前年同期は305億98百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い（1株当たり10円増配）等により、19億87百万円の支出（前年同期は40億81百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて26億51百万円の収入となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、411億74百万円となりました。

当社グループの短期運転資金は基本的に自己資金より充当し、設備投資資金や長期運転資金につきましては、事業計画に基づく資金需要、金利動向等の調達環境を勘案の上、金融機関からの長期借入や社債発行及び株式発行により適宜調達を行っております。

また、複数の金融機関と総額150億円のコミットメントライン契約を締結し、流動性を補完しております。なお、当第3四半期連結会計期間末の借入実行残高はありません。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結会計期間につきましては、主力の出版事業において、紙書籍の多くの作品ジャンルの売上が堅調に推移するとともに返品率が大幅に改善しました。また、電子書籍においても市場拡大による成長が継続したことにより、同セグメントの営業利益が大きく伸長いたしました。映像事業においても、映画館の席数制限等によるマイナス影響は継続しているものの、アニメの海外配信や他社ゲーム等への権利許諾の拡大により、営業利益が伸長しています。この結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益、EBITDAの全ての利益項目において、第3四半期連結累計期間としては、過去最高の業績を達成いたしました。

2021年3月期通期連結業績につきましては、政府から再び緊急事態宣言が発出されるなど、新型コロナウイルス感染症の終息時期はまだまだ不透明な状態が続いているものの、第3四半期までの業績進捗に基づき、2020年10月29日に公表した予想を修正いたします。

詳細につきましては、本日（2021年2月4日）公表いたしました「2021年3月期通期業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	74,880	61,899
受取手形及び売掛金	39,107	43,567
有価証券	—	1,000
たな卸資産	18,974	22,748
前払費用	1,651	1,524
預け金	3,433	3,741
その他	6,759	7,998
貸倒引当金	△887	△960
<b>流動資産合計</b>	<b>143,919</b>	<b>141,520</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	16,827	38,205
減価償却累計額	△6,809	△7,386
建物及び構築物 (純額)	10,018	30,819
機械及び装置	2,574	2,685
減価償却累計額	△1,390	△1,734
機械及び装置 (純額)	1,184	951
工具、器具及び備品	8,433	9,510
減価償却累計額	△7,159	△7,011
工具、器具及び備品 (純額)	1,273	2,499
土地	20,597	22,320
建設仮勘定	26,992	12,475
その他	707	804
減価償却累計額	△375	△527
その他 (純額)	331	276
<b>有形固定資産合計</b>	<b>60,398</b>	<b>69,342</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	4,292	4,604
のれん	456	388
その他	1,273	2,059
<b>無形固定資産合計</b>	<b>6,022</b>	<b>7,052</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	22,871	31,473
退職給付に係る資産	48	45
繰延税金資産	3,270	598
保険積立金	1,806	2,050
差入保証金	3,905	3,284
その他	1,050	838
貸倒引当金	△295	△292
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>32,655</b>	<b>37,998</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>99,076</b>	<b>114,394</b>
<b>資産合計</b>	<b>242,995</b>	<b>255,914</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,577	24,460
短期借入金	524	526
1年内返済予定の長期借入金	—	10,000
未払金	8,893	7,963
未払法人税等	2,464	1,665
前受金	9,612	11,206
預り金	3,733	5,518
賞与引当金	3,200	2,413
ポイント引当金	176	188
返品引当金	6,623	5,725
株式給付引当金	221	154
役員株式給付引当金	194	113
その他	4,953	3,816
流動負債合計	65,176	73,753
固定負債		
長期借入金	65,000	55,000
繰延税金負債	901	1,818
退職給付に係る負債	2,925	3,365
その他	1,617	1,526
固定負債合計	70,444	61,710
負債合計	135,620	135,463
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	43,799	43,795
利益剰余金	48,519	55,618
自己株式	△13,045	△12,927
株主資本合計	99,898	107,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,013	10,147
為替換算調整勘定	708	515
退職給付に係る調整累計額	681	562
その他の包括利益累計額合計	5,403	11,226
非支配株主持分	2,072	2,113
純資産合計	107,375	120,451
負債純資産合計	242,995	255,914



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	150,177	152,777
売上原価	101,776	97,539
売上総利益	48,400	55,238
販売費及び一般管理費	39,940	42,034
営業利益	8,460	13,204
営業外収益		
受取利息	189	131
受取配当金	456	443
持分法による投資利益	215	169
物品売却益	88	44
その他	85	221
営業外収益合計	1,035	1,009
営業外費用		
支払利息	69	76
為替差損	211	683
その他	23	6
営業外費用合計	303	766
経常利益	9,191	13,447
特別利益		
固定資産売却益	1,605	184
投資有価証券売却益	18	11
関係会社株式売却益	308	—
持分変動利益	319	14
受取和解金	585	—
その他	0	—
特別利益合計	2,838	209
特別損失		
減損損失	736	—
投資有価証券評価損	280	98
事業構造改善費用	359	410
その他	33	4
特別損失合計	1,408	514
税金等調整前四半期純利益	10,621	13,143
法人税等	2,711	4,297
四半期純利益	7,909	8,846
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	26	△140
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,882	8,987

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	7,909	8,846
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,457	6,133
土地再評価差額金	△10	—
為替換算調整勘定	△288	△209
退職給付に係る調整額	△19	△118
持分法適用会社に対する持分相当額	△57	△12
その他の包括利益合計	2,082	5,792
四半期包括利益	9,991	14,639
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,011	14,809
非支配株主に係る四半期包括利益	△19	△170

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	10,621	13,143
減価償却費	3,293	3,162
のれん償却額	54	52
減損損失	736	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	24	271
返品引当金の増減額 (△は減少)	△965	△883
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,947	△813
受取利息及び受取配当金	△645	△574
持分法による投資損益 (△は益)	△215	△169
固定資産売却損益 (△は益)	△1,605	△184
売上債権の増減額 (△は増加)	8,625	△4,420
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,699	△3,821
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,235	△96
前受金の増減額 (△は減少)	1,830	1,598
その他	△1,256	1,717
小計	12,616	8,982
利息及び配当金の受取額	859	803
利息の支払額	△57	△60
法人税等の支払額	△4,281	△3,646
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,136	6,078
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△19,551	14,469
有形固定資産の取得による支出	△11,671	△13,889
有形固定資産の売却による収入	2,337	423
無形固定資産の取得による支出	△2,082	△2,513
投資有価証券の取得による支出	△168	△70
投資有価証券の売却による収入	143	71
その他	395	250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△30,598	△1,258
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	187	21
長期借入金の返済による支出	△57	—
非支配株主からの払込みによる収入	156	—
自己株式の取得による支出	△3,001	△12
配当金の支払額	△1,297	△1,888
その他	△69	△108
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,081	△1,987
現金及び現金同等物に係る換算差額	△244	△180
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△25,788	2,651
現金及び現金同等物の期首残高	56,123	38,151
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	371
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,334	41,174

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス				
売上高								
外部顧客への売上高	84,719	24,541	10,081	19,045	11,763	150,151	25	150,177
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,243	246	80	91	1,999	3,662	△3,662	—
計	85,963	24,788	10,162	19,136	13,763	153,814	△3,636	150,177
セグメント利益又は 損失(△)	5,062	2,413	1,480	2,439	△1,728	9,668	△1,207	8,460

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,207百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去50百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益473百万円、全社費用△1,731百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス				
売上高								
外部顧客への売上高	93,160	21,958	12,355	16,345	8,932	152,751	25	152,777
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,092	481	19	77	3,801	5,473	△5,473	—
計	94,253	22,439	12,375	16,422	12,734	158,225	△5,448	152,777
セグメント利益又は 損失(△)	9,428	2,316	2,946	2,085	△2,994	13,782	△578	13,204

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△578百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益26百万円、全社費用△605百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

中期経営方針における成長事業領域の位置付けに合わせ、第2四半期連結会計期間より、従来の「映像・ゲーム」を「映像」と「ゲーム」に区分して記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。